

# 夏祭りと ふるさとテーマのニューソング



= 農的社会デザイン研究所代表・蔦谷栄一 =

平日は西東京市、土日は山梨市の牧丘町と、二地域居住を30年続けている。牧丘町では畑仕事にいそしんでおり、楽しいばかりではないが、都会とは違う周りの緑と空気に癒やされ、リフレッシュしている。

その牧丘町の室伏地区で、8月3日（土）の午後6時半から夏祭りが開かれた。公民館の前の庭にステージを設け、周囲には食べ物や飲み物を中心に屋台が並び、老若男女が集まる。普段はひっそりとして、人とすれ違うことも少ないので、こんなに人が住んでいるのかと驚かされる。

カラオケに盆踊り、また近隣の大学からの応援で踊りが披露され、最後は花火を打ち上げて締めとなるが、そのファーストステージでありメインイベントが、林由恭（よしやす）さんのギターとハーモニカを演奏しながらの歌である。時間の関係もあり、20分程度ではあったが、素晴らしいひとときに大満足した。

実は、わが家へ入る小道の入り口にあるお宅が由恭さんの実家で、ご両親の林さんご夫妻は当地で最もお世話になっている方々だ。いつもキュウリがたくさん取れた、ジャガイモが余っているとっては、たくさんの野菜などをいただくとともに、縁側でお茶を飲まれているところに出くわすと、よく誘われてはおしゃべりをさせていただいている。

由恭さんには双子の兄・久悦（ひさよし）さんがおり、2人は1994年に「風来坊」なる4人グループでメジャーデビュー。最近は「族音二重奏」「風カヲル時」などのバンド活動に加え、ソロシンガーとしての活動を増やしているらしい。また長渕剛さんや「ゆず」の全国ツアーなどにも参加しているそうで、長渕さんと舞台上で一緒に演奏することを目標に頑張ってきたとか。現在はやまなし大使（山梨県）や山梨市観光大使を務めるなど、“牧丘の宝”的存在でもある。

この日の歌は「葡萄坂」、巨峰の丘マラソン大会（牧丘町は日本一の巨峰の産地）のテーマソング「Excited」、市立笛川小学校の校歌など、すべて自分たちで作詞・作曲した牧丘町にちなんだものばかり。「僕は曲作りをしていると、生まれ育った地域の風景や、緑や土の匂いなど、自分の中にある記憶が自然に出てくるんです。何かを目指すという感じの曲を作っているときは、必ず富士山が頭に浮かんできます。他にもブドウ畑の緑が生い茂っている感じとか、鮮明な自然の情景が曲作りに生かされていますね」。

由恭さんは都会に住むようになってから、牧丘に吹く風が恋しくなり、ちよちよ帰省して畑仕事に励む。月1回程度ではあるが、そのたびに顔を合わせて立ち話をさせてもらっている。いずれUターンするかどうかは分からないが、「『行き当たりバッチリ!』で、頭で考える時間があったら、歩こう！走ろう！って感じがすかね。まずは、やりたいことを見つけることが一番大事です。それが何の仕事でも、自分がやりたいと思ったら、そこに進んでいきましょう」。

ふるさとを思う気持ちを歌にして、ふるさとを応援していくことが自らの挑戦・成長にもつながっていく。「行き当たりバッチリ!」で、ますますの活躍を楽しみにしている。



蔦谷 栄一（つたや えいいち）

東北大学経済学部卒業。1971年農林中央金庫に入り、熊本支店長、農業部副部長を経て、96年農林中金総合研究所基礎研究部長。常務取締役、特別理事などを経て、2013年11月より現職。

〔主な著書〕

「生産消費者が農をひらく」「未来を耕す農的社会」「農的社会をひらく」「地域からの農業再興」「共生と提携のコミュニティ農業へ」（以上、創森社）「日本農業のランドデザイン」（農山漁村文化協会）など



夏祭りに響く牧丘町をテーマにした歌